

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372301046		
法人名	社会福祉法人 伸生紀		
事業所名	グループホーム こもれび		
所在地	熊本県下益城郡美里町佐俣388		
自己評価作成日	平成23年1月7日	評価結果市町村受理日	平成23年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.in/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=4372301046&amp;SCD=320">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.in/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=4372301046&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成23年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

前年度に引き続き、地域交流の充実化を図っています。  
 今までは地域の方をホームにお迎えすることが多かったですが、今年度は職員が近隣施設への手作り雑巾を配付するのみならず、地元区役等への参加を初め、地元行事への積極的参加など地域へ出向く活動を行っています。  
 また、支援全般につきましてはご利用者への個別の対応を各職員が意識を持って提供し、喜んでいただき、運営規程に掲げてます「ご利用者の方々がキラキラと輝かれるようにお手伝いします。」につきましては、干し柿作りなどの馴染みのある活動を通して、自身の役割・存在意義を意識していただけるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣接する母体特養の増床工事が行われており、周囲は賑やかだったが、中に入ると静かで、木に囲まれたほっとする雰囲気のあるグループホーム。地域の人たちのホームに対する暗いイメージを打破したいと、地域に出向く活動や地域の方々にきてもらう活動に力を入れており、気軽に訪れてくれる人たちも増えてきている。町担当者との連携がとれており、日頃の連絡や情報交換のみならず、行事への積極的な参加もみられる。また、母体施設とも密接な連携が図られ、入居者や家族・職員の安心に繋がっている。また、お風呂は温泉で、入浴は入居者の大きな楽しみとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づき、グループホーム独自の理念を作成している。それに沿った年度の目標を立て、全職員で実践に繋がるよう努めている。	法人の理念に「地域社会の信頼」が謳われており、さらに、グループホーム独自の理念を作成し、地域との連携・一人ひとりを大事にするケアを心がけている。理念は毎日の唱和や玄関への掲示等で共有。さらに職員一人ひとりが理念に基づいた自分の目標をたて、日頃のケアの中での実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的とは難しいが、まずは「地域」と「施設」という壁を取り除こうということで、地域支援と連携をとりながら、サロン利用者をお迎えし、イメージの打破に取り組み、少しずつではあるが効果は得られている。	地域の一員として、苦役への参加や地域のお祭り、保育園の運動会等地域行事への参加や地域に出向く活動に力を入れている。また、母体施設が町の委託を受けて各地域公民館で実施している「サロン事業」の利用者に声をかけ、ホームに遊びにきてもらうことで、ホームの敷居が低くなり、今では、野菜等をもって気楽に訪れてくれる人が増えてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	茶話会やボランティアとの交流会時に、実際に認知症の方の様子や対応している職員の様子を見て感じていただく中で、理解と支援の方法を提供している。また、管理者もキャラバンメイトの資格を取得し、認知症の啓発活動に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月1回の開催を行い、ご利用者の様子やサービス内容等の報告を行っている。グループホーム内で起こっている転倒事故や苦情の実際も報告し、今後の対応についても貴重なご意見をいただいている。	区長・町福祉課担当者・町社協局長・家族会長をメンバーに二ヶ月に1回開催。入居者の様子やホームの活動、事故・苦情等の報告、意見交換等行っている。地元の行事やボランティアの情報ももらったり、区長からは、「職員の緊急連絡網はふいうちで実際流してみてもどうか」といった、貴重なアドバイスをもらうなど、会議での意見がホームのサービス向上に活かされている。	会議のメンバーに、民生委員・老人会の方等地域住民を増やすと、地域の中にさらに理解者・協力者が出来、サービス向上に資すると思われる。会議は、行事と同一日に実施し、実際に入居者と交流して理解を深める形式も検討されており、より有効な会議となることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加協力の依頼、日々の職務中における疑問点等を相談しながらスムーズな運営に繋がるように努めている。	町担当者には、日頃から疑問点を尋ねたり、ホーム運営に関する情報をすぐに流してもらったりと、密接に連絡が取られている。ホーム行事への参加もあり、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外研修での勉強を通し、意識、知識の向上に取り組み、ご利用者の意に添えるような対応に努めている。	入居者の、「今〇〇したい」という、その時の気持ちにできるだけ沿えるよう、心がけている。身体拘束をしないケアについては、繰り返し研修やミーティング等で意識付けを実施。主治医と相談の上、睡眠導入剤の使用をやめる方向で昼間の活動を増やしたり、転倒の多い方は畳で過ごす時間を多くする等、拘束しないための代替案を考えケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外研修での勉強を通し、意識、知識の向上に取り組み、各職員のストレスが溜まらないように職員が気軽に発言しやすいような環境作りやご利用者の身体の異変には気を付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修会へ参加することで、知識の習得に努め、実際に司法書士へ連絡、報告と連携をとりながら制度の活用を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居、各種改定、解約時にご本人、ご家族への説明と共に、疑問点の有無についても確認しながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の意見は、毎日の生活の中での様子や会話の中から汲み取るように努め、できるところから実行へと移している。ご家族も面会時などに状態報告しながら思いの把握を行うようにしている。	年1回家族会を開催しているが、ホームからの説明や家族間の交流は図られているものの、意見・要望等は出ていない。日頃の面会時に報告を欠かさないように良く話しかけ、意見や要望を聴く努力をしている。転倒の多い入居者の家族からの要望で、部屋に畳を敷くなど、速やかな対応がなされている。	家族会で、職員は席を外し家族だけで話しあう時間を設けると、意見・要望等が出しやすくなると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング時や毎日の流れの中で、気づきや希望がある時にその度、意見を聞き、できるところからの実行をしている。	毎朝の申し送りやミーティング、ケアの中で、喜ばれた声かけの事例や多様な気づきをスタッフ間で出しあい、共有することで、内容の厚い対応へと繋げており、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	本年度より、時期目標設定の前に個人面談を行い、職員と一緒に目標設定を行っている。その際、様々な気持ちや意志の確認を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数の長い職員が2名おり、管理者との3名体制で若手職員の育成に当たっている。その場での指導を目指している。職場内での研修は2ヶ月に1回、職場外での研修は内容に沿って派遣している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ブロック会議、ブロック会の勉強会、同系列のグループホームとの合同会議、外部研修等で情報交換、交流を行っている。管理者の交換研修を行うことで、スタッフの質の向上、業務の改善に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたり、スタッフがご自宅へ訪問し面談したり、ご家族と共に見学していただき、グループホームの雰囲気を感じてもらいながら、ご希望や不安な事などを伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、ご自宅や見学時での面談を通して、ご家族の不安軽減に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネ、ご家族、病院等から情報提供頂き、面談で、ご本人、ご家族の希望、支援要請を聴き取り検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	積極にご利用者とコミュニケーションを図り、ご利用者の「今したい事」に添えるように一緒に行う支援を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ご利用者の状態報告を行い、現状に合った支援をご家族にもしていただいている。また、外出、外泊、食事を一緒にされたり等で、ご利用者を支えて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイ利用者や特養入所者の馴染みの方の面会や、こちらから訪問をしている。ご家族や親戚の方への電話も定期的及び随時行い、ご希望に添えるよう支援している。	母体特養の入所者・デイ利用者との交流や、自宅近くまでドライブ、地元のサロンへ参加する他、以前から利用している床屋での散髪等、なじみの人や場との交流を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性、その日の気分等で小グループ化されている。トラブルに発展しそうな時は、職員が声掛けしたり、環境を変えたりして対応している。孤立しがちな方には職員と共に他ご利用者の輪に参加し交流の場を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援まではしてはいないが、機会を見て面会に行き状態の把握をし、ご家族とお会いしたり、電話等で状況報告をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のご利用者の表情等観察しながら悩み、不安、不満等、コミュニケーションを図りながら感じ取るように努めている。意思表示が困難な方は、表情、仕草等から希望の把握を行っている。	基本的な情報は、利用者本人・家族・ケアマネ等から詳細に収集。毎日の会話・表情からは思いをくみ取っていく努力をしている。思いの表出が少ない人には特に気をかけ、人のいないところでゆっくり話を聴くことや、時間を共にし、その想いを引き出すことを心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、担当ケアマネ等より情報提供していただき、また利用者の希望を優先し、入居前の環境を再現できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを活用したり、その人に合ったゲームや好まれる活動を中心に、心身の状態を見ながら持っている力、やりたいことの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングやその時々起きた出来事など、気になる事があればその都度話し合ったり、サービス担当者会議を開催するなどし、介護計画へ反映させている。	家庭的な雰囲気の中で、皆で楽しく生活をしていくことを主眼として計画を作成している。担当の職員がアセスメント、モニタリングを行い、家族の意見を踏まえ、ミーティングで意見を得て半年に一度計画を作成。変化が見られる際はプランを見直し、現状に即した計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに添ったケアを行い、気付いた点があればスタッフ間で話し合い、評価やカンファレンスにおける記録をし、今後のケアや計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前からの知り合いで、併設事業所のデイサービスや特養利用されている方へ会いたいとの希望の際は、面談の支援を行い知人と過ごされる時間を作っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関係を深めるように、地域支援担当職員と連携し、交流を年に5～6回程度行っている。交流会の内容としては料理作り、踊り披露、茶話会、折り紙作りなどである。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診はご家族や職員で協力して対応若しくは、往診をお願いしている。主治医には随時報告、相談等を行ない、連携を図っている。	かかりつけ医は、入居前からの病院に継続受診される方もあれば、母体特養の主治医の往診に変更される方もあり、希望に沿った対応となっている。病院受診は家族に依頼し、困難な場合は職員が対応しているが、残った職員が手薄になる場合もあり、家族同行の受診について協力依頼の予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体の変化や様子の変化に気付いた時は、看護責任者やデイ、特養看護職員、かかりつけ医への報告を随時行いながら、指示に基づきケアや受診の対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供の徹底や面会を行う際に医療関連スタッフとの意見交換を密にするなど関係作りの構築に努めている。退院についても事前に情報を得、管理栄養士、看護職員等と相談をしながら早期の受け入れ態勢作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約説明時に合わせ、看取り指針の説明も行っている。地域関係者と共にチームでの支援となると、まだ実際に経験がなく、今後の課題でもある。	看取り指針を作成し、家族に説明・同意を得ている。重度化した時点で、本人・家族の意向を確認し、希望があれば特養の協力を得て、最期まで対応する方針であるが、これまでに看取りの経験はない。	ホームでの看取りを行う場合に向けて、職員研修の実施・職員体制や母体との協力体制の確認等を行っておく必要があると思われる。ターミナルケアについては、各家族の意思の把握が必要と考える。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の勉強会で急変や事故発生時の連絡網やAEDの使用法も含めた応急手当の知識を身に付ける様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、昼間・夜間想定避難訓練を行っている。なるべく職員全員が訓練に参加できるように勤務に配慮しながら行っている。また、避難訓練の際、地域消防団、地域住民の方にも参加いただいている。	年2回、一度は夜間を想定し、消防署の協力・地元消防団や地域の方の参加も得、避難訓練を行っている。消防団からは運営推進会議の参加もあっており、建物の図面も渡し、日頃から協力体制ができています。なお、全居室・ホール等にスプリンクラーの設置工事が始まっており、一ヶ月後には完成予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「人生の先輩」として敬う気持ちを常に持ち、遠すぎず、近付き過ぎない、ほど良い距離を保ちながらお一人お一人に合った対応に努めている。	一人ひとりの生活歴を把握し、それぞれに対応した話をしたり、好むことを一緒にして生き生きと生活してもらうよう心がけている。また、居室のドアのガラス窓は真ん中がすりガラスになっていて、プライバシーを確保しながら入居者の様子が確認ができるよう工夫がなされている。トイレでの安否確認は、ドアの外で音を確認する等、特に注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自発的に発言し、思いを伝える事が出来る方以外は、体動や表情を観察しながら声掛けを行い、お気持ちの把握に努めている。一般活動や制作活動は、ご本人の気持ちを確認しながら行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	屋外へ出られる時は、職員配置や他者の状況、業務次第で対応可能な時は、付き添い、見守りを行っている。買物や、友人に会いたい等の希望時はお気持ちに添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の好みの衣服を毎日着用していただいている。季節感がない服の着用時は声掛けし、一緒に服を選んでいる。化粧品が切れた場合は、一緒に購入したり、施設にある化粧品を使用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し、嫌いなメニューがある場合、代替りのもので対応している。料理作り、準備、片付けは、ご利用者と職員が一緒に行い、ご利用者が積極的に出来るように声掛け等を行っている。	献立は特養の管理栄養士が作成したものを利用。時には希望によって調理法等変えている。入居者は能力や好みによって職員と一緒に野菜を切ったり、食後の茶碗洗い等行っていた。ソフト食も、特養の協力を得て可能にしており、時には外食や出前などを楽しむプログラムも実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	塩こんぶとお茶の提供等拒否なく補水を受け入れられる対応を行い、食事摂取量、補水量も毎日チェックし把握に努めている。メニューは管理栄養士の作成したものを基本的に、ご利用者の意見を取り入れながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。義歯洗浄は、自力可能な方には行って頂き、仕上げを職員がしている。3名の方は、毎週歯科衛生士の口腔ケアを受けられている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者の状況に応じて誘導、ポータブルトイレ、リハビリパンツ、パット等を使用している。体動や様子観察を行ったり、起床時や途中の尿量を確認しながら、タイミングを図り支援している。	入居者には、自分で自由にトイレに行ける人、尿取りパットを使っている人、夜はポータブルトイレを使用する人など、排泄の能力は様々である。動作・表情等常に観察しながら誘導するなど、それぞれの状況に応じた自立支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握、食物繊維の使用。繊維物豊富な食物の提供、歩行運動等の促しを行うことで、スムーズな排便に繋がるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、3回/週を基本に毎日実施しており、ご希望に添える様に努めている。1番風呂にこだわりを持っておられる方が数名おられ、交互に1番に入浴できるように工夫をしている。	お風呂は温泉であり、基本的には週3日の入浴であるが、毎日でも温泉を楽しむことができる。一番風呂にこだわる方のため、その都度お湯を入れ替える等の努力も見られた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアの片隅に畳スペースを設け、気軽に横になれるような環境作りや、各ご利用者の布団は居室掃除の際に、天日干しや布団乾燥機を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員がご利用者毎に処方箋を確認し、薬の内容を把握している。定期薬以外の薬については、申し送りや口頭での情報把握、看護職員との連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	会話、カラオケ、食事作り、製作物、一般家事等、それぞれのご利用者の生活歴や、好まれる事、身体機能に合致した活動、役割を提供し、楽しみ、気分転換等に繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族、グループホームスタッフ、併設事業所のスタッフとも連携をとりながら、出来る限りの対応に努めている。	入居者それぞれの希望に応じ、外に出たい時に散歩へ出かけ、1日おきの食材の買い物へ希望者を同行する他、日常的に母体特養のデイに遊びに行ったりしている。また、家族と一緒にドライブや、花見・みかん狩り・海を見に不知火まで出かける等の遠出の支援も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等や他者とのトラブルに繋がる事があり、本人所持はないが、特養事務所にご利用者の預り金が保管してある。希望時には自由に遣えるように対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時は即対応している。手紙等も同様で希望あれば対応可能だが、現時点では手紙の要望は聞かれていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月季節感のある壁画をご利用者と共に作製し、ご利用者の目に届く壁に掲示したり、季節感ある花を飾った支援を行っている。	リビングは天井も高く、木がふんだんに使われた気持ちの良い広い空間となっている。壁には、季節を感じてほしいと、皆で毎月作成している壁画や、習字等作品、楽しい行事の写真等が飾られ、温かな雰囲気がある。思い思いに過ごせるように大きなソファや、横になれるように畳のコーナー、また、絵本等が並べられた図書コーナーもあって、子どもたちの訪問時に喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方と過ごす空間は出来ている。 一人になれる空間は、居室や母子支援センター等があり、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、家族との写真や家具、仏壇等、思い出の品を持ち込まれている。	ほとんどがフローリングにベッドの部屋であるが、転倒時の事故防止のため、畳が敷かれた部屋もある。備え付けのベッド、洗面の他、木彫りのタンスや椅子などそれぞれに馴染みの品が持ち込まれている。中には仏壇が持ち込まれた部屋もあり、毎日お茶、お花を欠かさず、お参りされる等、それぞれの思いを汲み取った雰囲気作りが見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所への支援バー設置、滑り止めマット、シャワーチェア等の設置等、安全面への配慮を行い、「便所」や居室名の標記は分かり易いようにご利用者の体格に合わせ数種表示し、排泄や入室への自立も支援している。		